

四分川第7幹線(雨水渠)実施設計業務委託(R7-1) 特記仕様書

1. 特記仕様書の適用範囲

この仕様書は「四分川第7幹線(雨水渠)実施設計業務委託(R7-1)標準仕様書」(以下「標準仕様書」という)の第1章1.1及び1.2に定める特記仕様書とし、この特記仕様書に記載されていない事項は、標準仕様書による。

2. 業務の対象

- | | |
|-----------|---|
| (1) 名 称 | 四分川第7幹線(雨水渠)実施設計業務委託(R7-1) |
| (2) 位 置 | 甲府市上小河原町地内(別添位置図のとおり) |
| (3) 業務の目的 | 本業務は、甲府市公共下水道(雨水)基本計画に基づき、四分川第7幹線を整備するための測量及び地質調査、詳細設計業務である。既設施設を改修する計画であり、計画延長は詳細設計 643m、雨水渠の計画断面はB2500～7200、H1500～2400、流末は一級河川「四分川」に流入している。 |
| (4) 業務概要 | 【測量業務】 基準点測量・水準測量・路線測量・現地測量 【設計業務】 雨水渠詳細設計・打合せ協議(中間3回)・ 関係機関打合せ協議(6回) 【地質調査業務】 機械ボーリング・標準貫入試験・原位置試験・ 土質試験・地質調査間接業務 |

3. 業務内容

3.1 測量業務

(1) 基準点測量

現地測量及び路線測量等の基準として使用する4級基準点測量を行う。

基準となる既知点が近傍に存在する場合、又は関連付けを行う必要がある基準点がある場合はこれを使用するが、無い場合は起点・中間・終点部に設置する基準点にGPSにより座標を取得すること。

起点・中間・終点部付近に設置する基準点は、工事終了まで存亡の無い箇所で沈下移動が生じないように設置すること。なお、設置箇所の許可了解については受注者が行うこと。

(2) 水準測量

基準となる水準点が近傍に存在する場合、又は関連付けを行う必要がある水準点がある場合はこれを使用するが、無い場合は受発注者で協議を行う。

水準点の設置は(1)基準点測量で設置する基準点と同様な条件で設置する。基準点と水準点を兼ねる場合は委託内容の変更対象とする。

(3) 現地測量

雨水渠計画路線の現地測量(0.003km²)を行う。測量範囲は別途指示する。

(4) 路線測量

中心点間隔は20m、横断測量幅は45m未満、中心点は計画雨水渠の中心、若しくは偏心した位置に設置する。

仮BMの設置間隔については工事施工計画を勘案し、発注者と協議の上決定する。

3.2 地質調査業務

雨水渠の改築に際し、構造物基礎工検討及び仮設計画のための基礎資料を得るために地質調査を実施する。

(1) 機械ボーリング

地質及び掘削深度については、6箇所(砂・砂質土8.0m(φ66mm ノンコア)、レキ混じり土砂10.0m(φ66mm ノンコア))を想定している。また、構造物基礎工及び仮設構造物の設計に要する地質構成、N値等の成果を十分得ることが出来る深度まで掘進することとするが、掘進状況については常に発注者と情報共有し、掘止め深度については発注者と協議の上、決定する。

(2) サウンディング及び原位置試験

掘削深度1m毎に標準貫入試験を行う。また、地盤の水平方向の特性を把握するため孔内水平載荷試験及び現場透水試験を各6回実施する。載荷試験の試験孔及び深度については受注者から提案し、発注者の承諾を得て実施する。

(3) 土質試験

地盤の基礎的な特性を把握するため土質(室内)試験を実施する。試験内容については内訳書のとおりであるが、追加又は不要な試験項目数量及び、試料の採取深度、採取方法については、受注者から提案し、発注者の承諾を得て実施する。

(4) 資料整理等

機械ボーリング及び標準貫入試験の結果から地質柱状図を作成するとともに、地質調査全般について調査結果のとりまとめ及び評価を行う。

(5) 準備及び跡片付け

地質調査に関する調査計画の立案、機材搬入路の調査確認、調査箇所の借地等の交渉、調査孔位置の測量、調査後の跡片付け等を行う。

(6) 平坦地足場

機械ボーリングの資機材を設置するための足場であり、平坦地に設置することを想定しているが、平坦地足場が使用できない場合は、受注者から提案し発注者の承諾を得て変更する。

(7) 環境保全

地質調査のための作業エリアに第三者が立ち入ることのないよう、仮囲いを行うこと。特に夜間には立ち入ることが出来ないようにするとともに、常夜灯の設置等を含め安全管理には万全を期すること。

(8) 給水費

地質調査時に要する水は四分川から給水する予定であるが、河川管理者との協議により決定する。

(9) 調査孔閉塞

機械ボーリングにより生じた調査孔は確実に閉塞すること。閉塞に用いる材料は調査地点周辺が水田及び、住宅地に近いこと等を勘案し適切な材料により閉塞すること。

3.3 設計業務

詳細設計 布設替え工法（開削・内径φ1200 mm以上）

雨水渠の詳細設計を行う。計画断面はB2500～7200、H1500～2400を計画断面としているが、本項目中で再検討を行い断面を決定する。

4. 打合せ協議

打ち合わせ結果は受託者が「打ち合わせ記録簿」にとりまとめ、受託者と発注者が押印し報告書と共に提出すること。

5. 関係機関打合せ協議

雨水渠の詳細設計に伴い、河川管理者及びJR 東海と打合せ協議を行うこと。また、その結果については、「打ち合わせ記録簿」を作成し発注者に提出すること。

6. 成果品作成の事前協議

本業務の成果品の作成に先立ち、報告書の内容や編集方法及び図面の体裁等について監督員と協議を行うものとする。

7. 電子納品作成要領

納品する電子データは、「山梨県県土整備部 電子納品要領」（以下「要領」という。）及び「山梨県県土整備部 電子納品運用マニュアル」（以下「運用マニュアル」という。）に従い作成する。

8. 疑義

本特記仕様書により難しい場合は、監督員と協議し、決定するものとする。